



埼玉の豊かな 水とみどりを守り育む 分科会

～水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会～

「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」分科会 ～水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会～

構成メンバー(43者)

(一社)埼玉県浄化槽協会、(株)E-PAND、明治安田生命保険相互会社、(株)コミュニティネット

(公財)日本釣振興会埼玉県支部、マルキュー(株)、(株)シンプランニング、(株)テレビ埼玉

(株)PARQUE、(公財)埼玉県生態系保護協会、(株)スキーマ、毎日興業(株)、(株)ヴェルペンファルマ、東松山市
獨協大学、(株)地域デザインラボさいたま、(株)80%、NPO法人 埼玉ハンノウ大学、(株)CAWAZ、(株)温泉道場

古河産業(株)、(株)ブルーオーシャン研究所、(株)Akinai、ふじみ野オープン交流会、(株)住田工務店

(財)埼玉しあわせ未来基金、ニッコー(株)埼玉工場、(株)アイエフラッシュ、(株)ナレッジステーション

GSRコンサルティング(株)、MET Design Home(株)、埼玉大学、NPO法人 埼玉環境カウンセラー協会

(株)JTB埼玉支店、(株)レンタルのニッケン、(一社)埼玉県スマートまちづくり、(株)メイジエ

(一社)キャリアチャレンジ総合研究所、(株)大泉工場、芝浦工業大学

県河川環境課 県水環境課

発表者: 県河川環境課



部会における背景・課題等について



<川の国埼玉の将来像>

魅力的な水辺空間が
県民の大切な財産として
守り育てられ、
人々が賑わう
埼玉の豊かな川





<現状・課題>

○治水安全度を前提とした河川空間の利活用

○広大なスペースを活用した地球温暖化対策、

生物多様性戦略の推進

○多様な主体と連携した水辺空間の美化や保全、

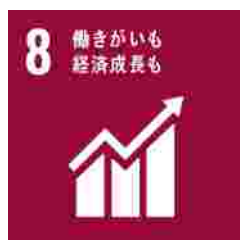
生態系ネットワークの形成

メンバーからの意見・アイデア等①



「川の国埼玉」の実現において

これまでは主に河川空間の利活用の視点での官民連携
(継続的な河川の維持管理に民間の経済活動の場をリンク)



メンバーからの意見・アイデア等①



「川の国埼玉」の実現において

これまでは主に河川空間の利活用の視点での官民連携
(継続的な河川の維持管理に民間の経済活動の場をリンク)



メンバーからの意見・アイデア等①



「川の国埼玉」の実現において

これまでは主に河川空間の利活用の視点での官民連携
(継続的な河川の維持管理に民間の経済活動の場をリンク)



人々の賑わいだけではなく
自然環境や生物多様性をおろそかにして
「川の国埼玉」は実現はない

メンバーからの意見・アイデア等①



「川の国埼玉」の実現において

これまでは主に河川空間の利活用の視点での官民連携
(継続的な河川の維持管理に民間の経済活動の場をリンク)



人々の賑わいだけではなく
自然環境や生物多様性をおろそかにして
「川の国埼玉」は実現はない

水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会

メンバーからの意見・アイデア等

メンバーからの意見・アイデア等



生物多様性条約第15回締約国会議COP15



2020 UN BIODIVERSITY CONFERENCE
COP 15 - CP/MOP10-NP/MOP4
Ecological Civilization-Building a Shared Future for All Life on Earth
KUNMING · CHINA



2030年を期限とした新たな世界目標のひとつとして「30by30」
世界の陸と海の30%以上を生物多様性のために守ることが合意



水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会



昆・モザイク組 ターゲット3 (30by30目標)

Target 3

Ensure and enable that by 2030 at least 30 per cent of terrestrial, inland water, and of coastal and marine areas, especially areas of particular importance for biodiversity and ecosystem functions and services, are effectively conserved and managed through ecologically representative, well-connected and equitably governed systems of protected areas and other effective area-based conservation measures, recognizing indigenous and traditional territories, where applicable, and integrated into wider landscapes, seascapes and the ocean, while ensuring that any sustainable use, where appropriate in such areas, is fully consistent with conservation outcomes, recognizing and respecting the rights of indigenous peoples and local communities, including over their traditional territories.

ポイント

- ✓ **陸** (陸域と陸水域) と **海** (沿岸域と海域) の **30%以上** を
- ✓ **保護地域** と **OECM** で保全・管理し、
- ✓ より広域の陸上/海洋景観及び海洋に統合する

環境省資料より抜粋
「資料1 自然共生サイト (仮称) と
経済的インセンティブ等との関係について」

「OECM」について



OECM全体像イメージ

注) 今後の検討によって変更の可能性あり

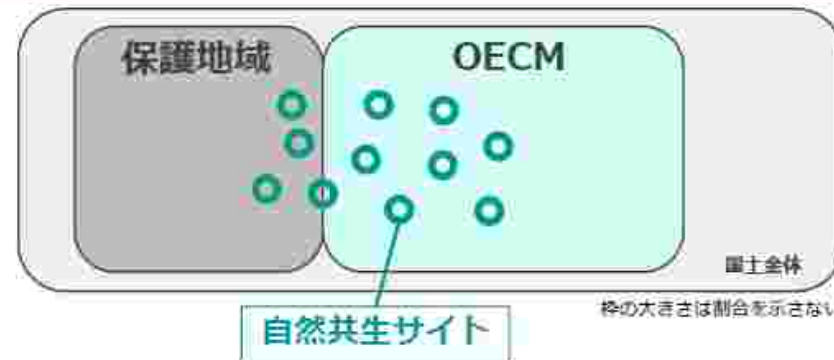
陸 域

- 自然共生サイト認定区域
(保護地域との重複を除く)
- 団体との連携協定
- 国の制度等に基づく管理区域

海 域

- 【沿岸域】
 - 自然共生サイト認定区域
(保護地域との重複を除く)
- 【沖合域】
 - 国の制度等に基づく管理区域

保護地域、OECM、自然共生サイトの関係



環境省資料より抜粋
「資料1 自然共生サイト（仮称）と
経済的インセンティブ等との関係について」

「自然共生サイト」について



- 「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を保護地域内外問わず「**自然共生サイト**」に認定。
- 「自然共生サイト」に認定された区域のうち、**保護地域との重複を除いた区域**を「**OECEM**」として登録。

自然共生サイト

民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域
(申請主体：企業、団体・個人、自治体)



自然共生サイト
認定

審査 (認定主体：環境省)

「自然共生サイト」のうち、保護地域との重複を除外した区域

OECEMとして国際データベースに登録

注) 「自然共生サイト」の「(仮称)」は便宜上、本資料では省略

環境省資料より抜粋
「資料1 自然共生サイト(仮称)と
経済的インセンティブ等との関係について」

「自然共生サイト」と「経済的インセンティブ等」について



- 「自然共生サイト」は、認定を契機とし、生物多様性の価値が広く認知され、価値の維持や質の向上が図られていくことが期待。
- 一方で、「自然共生サイト」は、民間の取組等によって保全が図られている区域であることから、価値の維持や質の向上の取組を促進するためには、自然共生サイトの土地所有者・管理者・支援者に対する、経済的なものを含むインセンティブ付与が重要。
- そのため、「30by30に係る経済的インセンティブ等検討会」において、主に「自然共生サイト」に対する「インセンティブ」を検討中。

メンバーからの意見・アイデア等



埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム

「水辺空間及び都市公園等の持続可能な利活用に関する検討部会」に係る研修会

「SDGs と自然共生サイト」

＊人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を＊

令和5年3月23日（木）

13:30～16:00

埼玉県・(公財)埼玉県生態系保護協会



水辺空間の持続可能な利活用及び環境課題解決に向けた検討部会



メンバーからの意見・アイデア等



研修会「SDGsと自然共生サイト」

人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を

温暖化による災害の激甚化と生物の減少を同時に解決する取組

→生物で賑わう調節池・遊水地が

グリーンインフラとして注目

<今後の方向性>

30by30の達成に向けて調節池・遊水地を

「自然共生サイト」として位置づけ



芝川第一調節池（さいたま市）

埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム

「水辺空間及び都市公園等の持続可能な利活用に関する検討部会」に係る研修会

「SDGsと自然共生サイト」

＊人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を＊

■プログラム（案）

○基調講演

「自然共生サイトの今後の動向と生きもの賑わう調節池・遊水地とは」

○事例紹介①

戸田ヶ原自然再生事業、芝川第一調節池

荒川太郎右衛門自然再生地・三ツ又沼ビオトープ

○事例紹介②生物多様性に貢献する県内企業・団体の取組

武蔵野銀行、凸版印刷、サイサン環境保全基金

部会における具体的な取組

部会における具体的な取組

<横瀬エリアプロジェクトチーム>

横瀬川は、町内の中央を流れており
身近な自然、景観資源となっている



特にウォーターパーク・シラヤマ周辺は
水辺再生100プランによる整備で親水性が
向上し、町内外から多くの利用者訪れている

部会における具体的な取組

<横瀬エリアプロジェクトチーム>

- ・ 利活用の目的、目指す将来像
横瀬町が実施する官民連携プラットフォーム「よこらぼ」において、県の「リバーサポーターズプロジェクト」からの提案事業が採択され、官民が連携し、川（水辺）の新たな魅力や賑わいの創出を目指す
- ・ 想定する河川空間の利活用
参加企業から提案される事業を横瀬川とウォーターパーク・シラヤマを一体的に活用した商業的空間利用と子どもが自由に川と触れ合える水遊び等の河川空間を同居させる



×



SAITAMA / リバ-サポ-アズ

+



部会における具体的な取組

河川空間の利活用イメージ



- 水辺deベンチャーチャレンジ事業により、R7整備完了を目指す
- R5から、リバサポでテストイベントを順次実施

部会における具体的な取組

○12/13 リバサポ企業サポーターの(株)J&J事業創造と連携し、SDGs × 観光まちづくり 研修プログラムを実施

ビジネスカードゲーム

気づき(認知・理解)

- ・SDGsに対する理解
- ・地域の課題を自分ゴト化・学習
- ・チームビルディング

ワークショップ

行動変容

- ・SDGsを意識したまちづくりの重要性理解
- ・地域の想いを具体的にした事業案の作成
- ・新しい取組の必要性の気づき



今後の展開

今後の展開について

<大相模調節池プロジェクトチーム>



民間事業者との協定締結（令和4年8月）

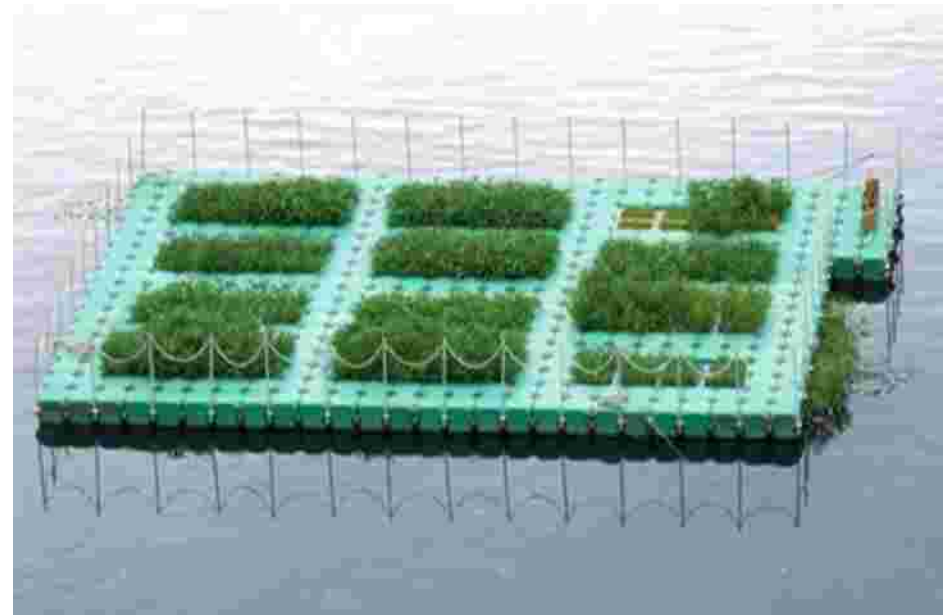
○水辺deベンチャーチャレンジにより
今後、民間連携による水辺の利活用が
進む大相模調節池の水質改善の取組を
検討していく

今後の展開について

<大相模調節池プロジェクトチーム>



水面を静かに漂う動く栈橋「海床ロボット」



浮く畑による水質浄化

埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム

「水辺空間及び都市公園等の持続可能な利活用に関する検討部会」に係る研修会



次回お知らせ

テーマ：「SDGsと自然共生サイト」*人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を*

日時：2023年3月23日(木) 13:30~15:30 開催形式：WEBと対面開催

会場：武蔵野銀行本店 2F「M's SQUARE」 ※会場での参加は定員30名(先着順になります)

昨年12月、生物多様性条約第15回締約国会議・COP15第2部において、2030年を期限とした新たな世界目標のひとつとして「30by30」すなわち世界の陸と海の30%以上を生物多様性のために守ることが合意されました。

埼玉版SDGsの重点テーマである「埼玉の豊かな水と緑を守り育む」は、この合意事項に基づき生物多様性の保全を前提に、今後展開されていくことが期待されます。

そうした中、温暖化による災害の激化と、生きものの減少を同時に解決する取り組みとして今、生きもので賑わう調節池・遊水地整備がグリーンインフラとして大きな注目を浴びています。今後、30by30の達成に向けては自然保護地域の拡大が必要になりますが、生きものが賑わう調節池・遊水地は、その対象地となる「自然共生サイト」として位置づけられる見込みです。

ただし私たちの身近にある調節池や遊水地、さらには今後整備されるものも含めて、その機能を持続させるには、民間の取組が重要になります。

今回の研修会において、本検討部会の皆様には「30by30」「自然共生サイト」「多様な主体の連携・協働による水辺の再生」に関して、最新の知見を情報共有させていただき、部会メンバーの企業・団体のSDGsの取組のご参考にしていただければ幸いです。



「SDGsと自然共生サイト」

* 人を守り、生きもので賑わう調節池・遊水地を *





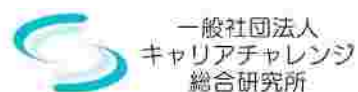
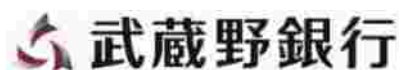
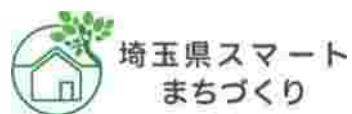
プログラム
(予定)

- 開催趣旨説明：(公財)埼玉県生態系保護協会 事務局長 前田博之
- 基調講演：「自然共生サイトの今後の動向と生きもの賑わう調節池・遊水地とは」
(公財)日本生態系協会 専務理事 関 健志
- 事例紹介①
 - ・戸田ヶ原自然再生事業 / 戸田市 みどり公園課長 岡安敦志
 - ・芝川第一調節池 / さいたま県土整備事務所 担当部長 上田貴司
 - ・荒川太郎右衛門自然再生地・三ツ又沼ビオトープ / 河川環境保全モニター 堂本泰章
- 事例紹介② (生物多様性に貢献する県内企業・団体の取組)
 - ・武蔵野銀行 / サステナビリティ推進室長 高倉啓
 - ・凸版印刷 / 製造統括本部エコロジーセンター 芳住啓
 - ・サイサン環境保全基金 / 事務局長 櫻井郁夫 (敬称略)



「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」分科会 ～都市公園の持続可能な利活用と環境保全に関する検討部会～

構成メンバー(16者)



発表者: シンプランニング、明治安田生命、キャリアチャレンジ 総合研究所・スマートまちづくり



部会における背景・課題、目的

【背景・課題】

大宮公園は、1885（明治18）年の開設の130年を超える歴史ある公園。

近年は、悪化した舟遊池の水質改善や池周辺を含めた魅力の創出が課題。



平成30年にアオコが大量発生

【目的】

大宮公園の歴史的価値や美しい風景、豊かな自然環境などを次世代に継承するため、舟遊池の水質改善と自然環境の再生・保全を図るとともに新たな賑わい創出に取り組む。

部会で実施した事業・取組等

《かいぼりの実施》

かいぼりの手順と取り組み

10月3日から



・ボランティアリーダー
「大宮池守」育成

・親子向け
ワークショップ



11月3日, 4日
大掻掘まつり



・「大掻掘まつり」



3月まで



・自然観察「池底ウォーク」
・植物・生き物生息環境整備
「浅場づくり」



3月末から



・「大宮池守」による
水辺再生・保全
・池の利活用

「大宮公園大掻掘まつり」

ボランティア参加人数 322人 2日間合計延べ



ボランティアと見学者



大宮池守の皆さん

(主な在来種)

- モツゴ 数万匹
- スジエビ 数千匹
- ギンブナ 数百匹
- ナマズ 数匹

(主な外来種)

- カダヤシ 数十匹
- アメリカザリガニ 数匹
- コイ(白鳥池に入れたまま) 数匹
- アリゲーターガー 1匹 (後日捕獲)



ナマズ



コイ



アリゲーターガー



魚等捕獲の様子



仕分けの様子

舟遊池 水を抜く前(9月)と後(11月)



before



after

ブース出店 23団体 44ブース 2日間合計延べ



賑わうキッチンカー



体験ブース



都市公園の持続可能な利活用と環境保全に関する検討部会

<4>



浅場づくり ～植物や生き物の生息環境をつくる～

生きもの豊かな
池の再生をめざして

浅場を整備しています

陸地と池の間にある、水深の浅い湿地は、稚魚や水生昆虫、湿生植物など、たくさんの生きものがすむ場所です。生きものが豊かな水辺を再生するために、池底の泥を岸に寄せ、浅場を整備しています。

現在の岸辺

護岸から先は1メートルくらいの深さがあり、池と陸の間がなだらかに変化している移行帯（エコトーン）がありません。



水がひたひたな湿地に！

池底の泥を寄せて段を作り、湿生植物の生育場所を整備。稚魚や水生昆虫、水鳥などのすみかになります。



都市公園部会における今後の展開

○「大宮池守」による継続的な舟遊池の水辺再生・保全、普及啓発活動



○かいぼり後の舟遊池を活用した賑わい創出 ～貸しボート事業の復活等～



○他公園での新たな検討グループ立ち上げ

○「かいぼり」に次ぐ大宮公園の利活用(賑わい創出)と環境保全に関する多面的取組

大宮公園の利活用(賑わい創出)と環境保全に関する多面的取組

大宮公園を盛り上げるSDGs目標をテーマにしたイベントを一年を通して実施

春

夏

秋

冬

【健康】「みんなでスポーツ」

【水辺の利活用】「ボート発進」

【ゴミ拾い×リサイクル×アート】【NFT】「親子でキャリアチャレンジin大宮公園」

【まちづくり】「避難体験・防災に役立つアウトグッズ」お試し」

【地域創成】「大宮公園で恋の予感」出会いサポート

※表記のイベントはアイデアの一部であり例示です。



都市公園の持続可能な利活用と環境保全に関する検討部会

<7>



舟遊池 池底活用イベントのご案内

大宮公園 池底ウォーク

干し上げ中の池底を歩いて、舟遊池を満喫しよう！
何が見られるかな？観察しながら、池の自然や
かいほりの取組について学習します。

2023年
2月11日（土）

10時～12時（荒天中止）



自然再生のために体を動かそう！

舟遊池

浅場づくり

干し上げ中の舟遊池で、自然を豊かにする作業をしませんか？池底の泥を運んで植物が生育できる「浅場」を整備したり、泥に埋もれたゴミを掘り出したりします。

2023年

- ① 2月23日（木祝）
- ② 3月11日（土）

10時～12時（荒天中止）



快心は池底に
ゴミをスリッパで



都市公園の持続可能な利活用と環境保全に関する検討部会



「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」分科会 ～里山や平地林などの自然環境の保全に関する検討部会～

構成メンバー(20者)

県みどり自然課 県森づくり課 入間市 飯能市
飯能信用金庫 獨協大学 埼玉大学
(NPO法人)埼玉ハンノウ大学 (NPO法人)埼玉環境カウンセラー協会
株式会社自然教育研究センター
公益財団法人 埼玉県生態系保護協会 秩父広域森林組合
株式会社ノヴァ 武蔵野銀行 望月印刷株式会社
株式会社住田工務店 (株)埼玉りそな銀行 株式会社Akinai
一般財団法人 埼玉しあわせ未来基金 森のフィールド学舎

部会における背景・課題等について



【課題】

里山や平地林の減少や荒廃。保全や管理の担い手不足。関係者間をつなぐ情報共有や連携が不十分。

【意見・アイデア】

① はんのう森林プラットフォーム

情報発信、交流イベント開催等を一元的に行う体制(プラットフォーム)の構築

② 天覧山(飯能市)におけるフィールド調査

ナラ枯れ被害の実態把握、平地林資源の有効活用策の検討

【実施した事業・取組】

○ 森林ワーキングホリデー

R3年度の検討部会で提案された、自然環境保全×観光＝「ワーキングホリデー」の実施報告



里山や平地林などの自然環境の保全に関する検討部会

<2>



メンバーからの意見・アイデア等①



“森からはじまる未来をつくる”
はんのう森林プラットフォーム



提案者



里山や平地林などの自然環境の保全に関する検討部会

<3>

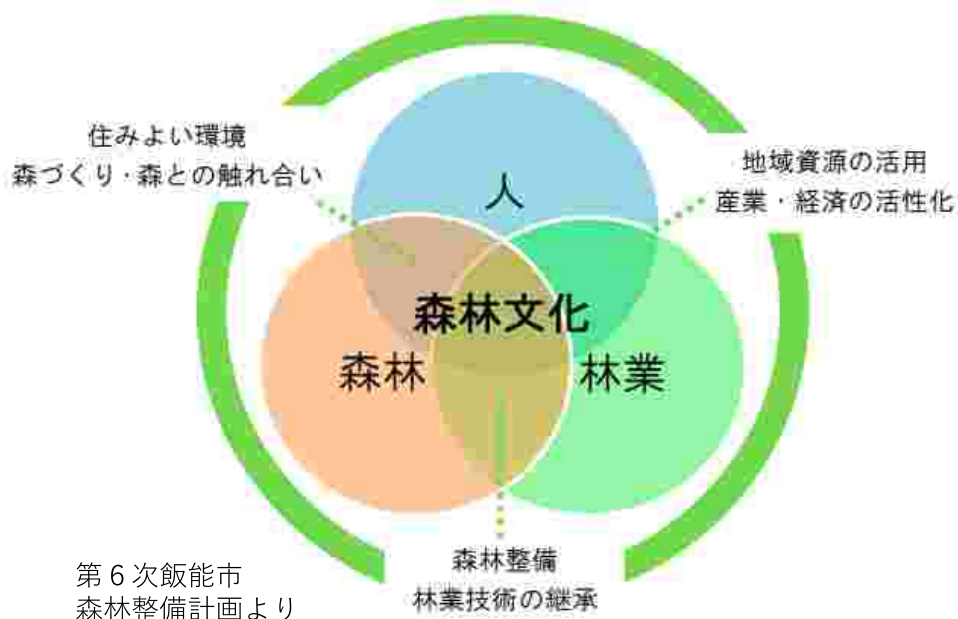


メンバーからの意見・アイデア等①



発案のきっかけ＝地域課題解決

～豊かな森林文化の再生と創造～



- ①西川林業地の復興に必要な若い担い手が早急に必要である。
- ②森林に関し様々な取組みがあり、プレイヤーがいるが、情報がバラバラであるため、情報の整理（プラットフォーム化）が必要。
- ③再生と創造を目指した、飯能市の森林文化のブランディング化。

メンバーからの意見・アイデア等①



事業の内容

人材育成・担い手確保

西川林業のヒト・コト・モノを一同に集める
西川林業情報発信サイト

「はんのう森林プラットフォーム」創設

西川林業事業体

「地域資源を生かした」

- ・農林事業体
- ・木工事業体
- ・森林事業体など

協力企業・
市民団体

- ・NPO法人埼玉ハンノウ大学
ほか

助成金・
補助金

- ・飯能市
- ・埼玉県
- ・林野庁
- ・飯能信用金庫

はんのう
森林
プラット
フォーム



里山や平地林などの自然環境の保全に関する検討部会

<5>



メンバーからの意見・アイデア等①



事業の詳細

①【西川林業情報発信サイト（ホームページ・パンフレット）運営】

森づくりの担い手を育成、確保するために、西川林業に携わる林業家や企業をサポートするとともに、各魅力を発信する情報環境の整理と一元化。森林・林業に関する普及啓発にも繋がる、プラットフォーム（ホームページやSNS）を構築。

②【林業をデザインするイベントの開催&運営】

「森で働く」を念頭に、森林と関わる働き方や新規の事業、ライフスタイルを新たな視点で考える20代~40代を対象とした林業体験や先進事例を学ぶ交流イベントを企画・運営・開催

③【森林をデザインするイベントの開催&運営】

「森で企てる」をベースとした様々な交流イベントの企画・運営の開催とサポートをする。地域の観光資源と森林、林業を繋ぐ新規事業や、新たな取り組みの提案や相談の窓口としての受け皿的役割も担えるように、西川林業事業体と新規プレーヤーとを「繋げる」体制づくりをする。

メンバーからの意見・アイデア等について②



2023.1.17 現地検討会(飯能市大字飯能:天覧山周辺)

参加(敬称略、順不同)

- ・飯能市森林づくり推進課 ・埼玉ハンノウ大学
- ・入間市都市計画課 ・さいたま緑の森博物館
- ・飯能信用金庫 ・埼玉県みどり自然課

検討会のコンセプト

- ・平地林におけるナラ枯れ被害の実態(+伐採見学)
- ・抜本的対策としての平地林資源の循環的利用の模索(+地域における事例紹介)

主な意見、アイデア等(抜粋)

- ・ボランティア等による搬出プログラムを組んでは
- ・薪需要者に提供しては
- ・作業道を開設し、重機による搬出をしては
- ・馬搬(馬を使った木材搬出)に取り組んでは
- ・地権者との連携関係を構築しては
- ・「コブ」を活用しては
- ・「木材搬出」を競技にしては



部会で実施した事業・取組等について



×



里山や平地林などの自然環境の保全に関する検討部会での提案



森林ワーキングホリデー 手ぶらで林業 & 薪割り体験 VOL.2



西川広域森林組合 飯能市林業センター

次世代継承を目指した欧州式保全活動と地域活性化活動



里山や平地林などの自然環境の保全に関する検討部会

<8>



部会で実施した事業・取組等について



検索 MyBox

Home イベントカレンダー お知らせ 飯能市のエコツーリズム エコツアーのご案内 団体紹介 エコツアー実施関係 その他 リンク

手ふらで林業&薪割り体験 “森林ワーキングホリデー”



飯能市森林づくり推進課とエコツアー推進課が共に関わる新たな取り組みとして、森林整備をエコツアー化する。モニターツアー、実証ケースとしてR4年11月より開始。

緑溢れる名栗の里山で、林業体験しませんか？林業体験は森の保全。森は川や海へと繋がり、未来へ美しい自然を残すことになります。これまで経験したことのない自然の醍醐味が味わえます。ランチは民家をリノベーションした可愛いお店で「ちょっと田舎暮らし」の体験談を聞きながら。午後は薪割り体験&薪ストーブdeおやつの盛り沢山の1日です。

<スケジュール>

10:00 自己紹介・ブリーフィング、森へ出発⇒11:00 林業（残林搬出）体験⇒12:30 民家をリノベーションしたレストランでランチ・「都会で働き、田舎で暮らす」体験者と意見交換⇒14:00 薪割り体験&薪ストーブでティーブレイク⇒15:30 終了・解散



里山や平地林などの自然環境の保全に関する検討部会

<9>



部会で実施した事業・取組等について



森林ワーキングホリデーの企業マッチング株式会社エイチ・アイ・エス様の埼玉県西部地域におけるワーケーション・促進事業に採用決定。令和4年11月に開催。



里山や平地林などの自然環境の保全に関する検討部会

<10>



本分野における今後の展開について



- 「はんのう森林プラットフォーム」などの意見・アイデアを
実践・蓄積し、全県への横展開を図る
- 取組の実践、展開を通じて、検討部会の仲間（メンバー）を増やす
- 新たな意見やアイデアが生まれ、里山・平地林の持続的な保全や活用
の取組が進む

「埼玉の豊かな水とみどりを守り育む」分科会 ～プラスチック資源の循環利用促進に関する検討部会～

構成メンバー(171者)

<企業会員(101者)>

味の素AGF株式会社 アスクル株式会社 株式会社あらた 株式会社アルビオン イオンモール株式会社
伊田テクノス株式会社 石塚化学産業株式会社 イーデーエム株式会社 テクノセンター 株式会社岩井化成
ウォータースタンド株式会社 ウム・ヴェルト株式会社 株式会社エコ計画 株式会社エコスファクトリー
株式会社エコバンク 株式会社エコマックス エスビー食品株式会社 東松山工場 株式会社エフエムナックファイブ
株式会社エム・エル・エス 株式会社大泉工場 オリックス資源循環株式会社 株式会社カインズ 花王株式会社
株式会社カネカ GreenPlanet推進部 カネパッケージ株式会社 株式会社亀屋 川上産業株式会社 北関東営業所
株式会社環境サービス 株式会社菊池化成 株式会社きぬのいえ 株式会社木下フレンド キムラセンイ株式会社
協和産業株式会社 栗田工業株式会社 クリーンシステム株式会社 株式会社警備ログ 株式会社ケーヨー
株式会社甲商 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 株式会社光和製袋 コーワプラス株式会社
彩源株式会社 株式会社さいたまアリーナ 株式会社埼玉りそな銀行 サニーポット株式会社 株式会社サムズ
サラヤ株式会社 サンケン電気株式会社 株式会社シード 有限会社JF原料 株式会社JEMS
株式会社ジモティー 有限会社昭和メタル シンテゴンテクノロジー株式会社 生活協同組合パルシステム埼玉
株式会社関商店 株式会社セブン&アイ・フードシステムズ 株式会社セブン-イレブン・ジャパン ゼロファイブ株式会社



発表者: 県資源循環推進課

<1>



構成メンバー(171者)

株式会社大誠樹脂 大成ラミック株式会社 株式会社ダイエー 第一生命保険株式会社 浦和支社
大日本印刷株式会社 情報イノベーション事業部 舘野商事株式会社 株式会社中央化学
ツネイシカムテックス株式会社 株式会社TBM 東明興業株式会社 東武商事株式会社
凸版印刷株式会社 情報コミュニケーション事業本部 マーケティング事業部 トルムスイニシエイト株式会社
中村化成工業株式会社 中村産業株式会社 日榮新化株式会社 株式会社パイロットコーポレーション
合同会社HAYAMI 株式会社パルコ 浦和店 飯能信用金庫 株式会社ヒガシヤデリカ東松山工場
平田精工ジャパン株式会社 株式会社PiiS Road 藤田ゼロファン産業株式会社 株式会社プロトリーフ
株式会社平泉洋行 株式会社平和化学工業所 ホッティーポリマー株式会社 HOYA株式会社 アイケアカンパニー
株式会社ホーライ 真韻株式会社 前田道路株式会社 株式会社丸栄商店 株式会社武蔵野銀行
株式会社ユーアイ社 ユニリーバ・ジャパン・カスタマーマーケティング株式会社 株式会社吉村 ライオン株式会社
株式会社リテラ リバーホールディングス株式会社 ロータリー株式会社 株式会社ロッテ 中央研究所
和光紙器株式会社

<消費者・業界団体会員(10者)>

朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会 エコ鶴市民の会 埼玉エコステージ研究会



発表者: 県資源循環推進課

<2>



構成メンバー(171者)

一般社団法人埼玉県環境産業振興協会 埼玉県地域婦人会連合会 新日本婦人の会埼玉県本部
一般社団法人ソーシャルプロダクツ普及推進協会 一般社団法人NIPPON紙おむつリサイクル推進協会
ふじみ野オープン交流会 NPO法人プラスチックマテリアルリサイクル推進協議会

<市町村等会員(60者)>

さいたま市 川越市 熊谷市 川口市 行田市 秩父市 飯能市 所沢市 加須市 本庄市 東松山市
春日部市 狭山市 羽生市 深谷市 上尾市 草加市 越谷市 蕨市 戸田市 入間市 志木市 新座市
桶川市 久喜市 北本市 八潮市 富士見市 三郷市 幸手市 鶴ヶ島市 日高市 吉川市 ふじみ野市
伊奈町 三芳町 毛呂山町 滑川町 嵐山町 小川町 吉見町 鳩山町 ときがわ町 横瀬町
皆野町 小鹿野町 東秩父村 美里町 神川町 上里町 寄居町 杉戸町 松伏町
志木地区衛生組合 小川地区衛生組合 秩父広域市町村圏組合 児玉郡市広域市町村組合
大里広域市町村圏組合 蕨戸田衛生センター 行田羽生資源環境組合

<埼玉県>

環境科学国際センター 産業技術総合センター 産業廃棄物指導課 資源循環推進課(事務局)

発表者: 県資源循環推進課

<3>



部会における背景・課題等について

1 背景

- ・プラスチックを取り巻く国内外の状況(海洋プラスチック問題、気候変動問題等)
- ・プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律(プラスチック資源循環法)の成立
(令和3年6月公布、令和4年4月施行)

2 目的

- ・プラスチック廃棄物の排出抑制とプラスチック資源の循環利用の促進

3 取組概要

- ・効率的な分別・回収方法の検証
- ・リサイクルに向けた意識啓発
- ・循環利用に向けた事業者の取組支援

部会で検討した事業・取組等について

①市町村の分別収集支援

②消費者への意識啓発

③事業者による連携の取組支援

部会で検討した事業・取組等について

① 市町村の分別収集支援

幸手市と連携して12施設に収集箱を設置し、プラスチック製品の循環利用に向け、市町村が導入しやすい効率的な収集方法を検証(R4.11~R5.2)

- 品目を限定せず、プラスチック製品全般(衣装ケースやバケツなど)を収集
- 収集箱(無人)で3か月間収集したが、プラスチック資源以外のごみの混入はほぼなかった
- 収集したプラスチック資源は、近隣の事業者により全量を再資源化
- 検証結果は、今後県内全市町村へフィードバック



公共施設に設置した収集箱



集まったプラスチック資源

部会で検討した事業・取組等について

② 消費者への意識啓発

【ファッション&プラスチック3R@浦和PARCO】

(株)パルコ等8者と連携し、衣類及びクリアファイルなどの回収並びに会員の取組を紹介するキャンペーンを展開(R4.10~11)

- 回収に協力いただいた方には浦和パルコ食事券などをプレゼント
- 各社の取組を紹介するパネル展示の外、リメイクや着回しにより古着の新たな魅力を提案する展示・販売も実施
- 5日間で約2,500kgの衣服、90kgのクリアファイルを回収し、全量をリユース、リサイクル
- 持参者から「環境問題と言われても難しいが、これなら取り組める」と好評

「ファッション&プラスチック3R@浦和PARCO」 資源循環イメージ



キャンペーンの様子



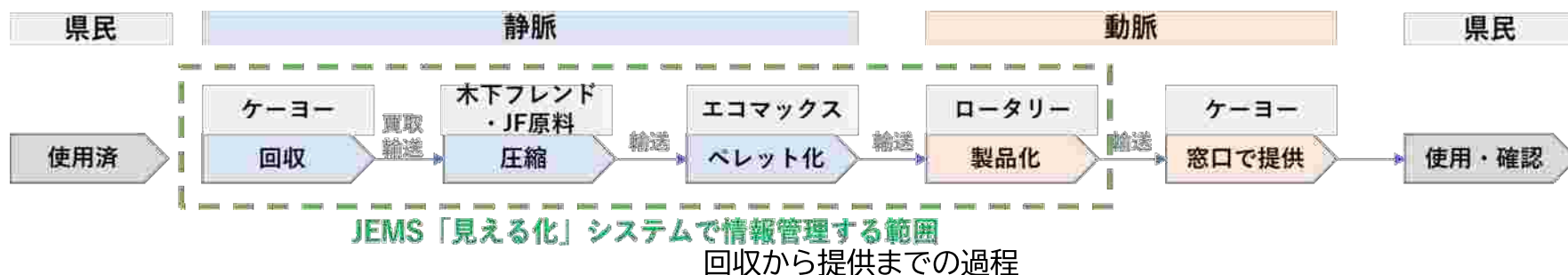
集まった衣類

部会で検討した事業・取組等について

③事業者による連携の取組支援

大日本印刷(株)等7者が連携してプラスチック資源の回収から製品化までの流れを「見える化」し、リサイクル製品の購買に対する消費者意識の変化等を調査(R4.11~R5.2)

- 使用済のプリンターなどを店頭で回収し、リサイクルを行い再び製品にして消費者に提供
- 一連の過程を可視化し、スマートフォンなどで確認できるようにすることで、リサイクル製品の付加価値とすることを旨す
- 3日間で約1,100kgのプラスチック資源を回収し、ほぼ全量を再資源化
- 検証結果は、今後ホームページ等で公開



「見える化」のイメージ



「見える化」QRコード



プラスチック資源の循環利用促進に関する検討部会

< 8 >



本分野における今後の展開について

- 地域や収集状況の異なる複数の市町村で拠点収集を実施し、回収モデルを発信
- 会員のマッチング等により、循環利用に向けた課題を解決し、ビジネスにつながる会員の取組を支援
- 会員と連携し、リサイクルへの機運醸成と需要喚起を促進

「未来を創る人材への投資」分科会 ～自ら課題を発見し解決する能力の育成に関する検討部会～

構成メンバー(15者)

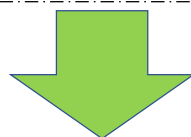
(株)学研スタディエ (株)埼玉りそな銀行
古郡建設(株) (株)STEAM ENGLISH
(一社)キャリアチャレンジ総合研究所 NPO法人埼玉ハンノウ大学
(福)平野の里 和光市チームSDGs
埼玉大学 埼玉大学「科学者の芽」 埼玉大学教育学部附属小学校
芝浦工業大学
県教育政策課 県高校教育指導課 県義務教育指導課

部会における背景・課題等について

【背景】

これからの高校生は、

- ・ 少子化・人口減少等の中において「持続可能な社会の創り手」になることが求められる。
- ・ 将来予測の困難な時代において、自ら主体的に社会に関わり未来を切り拓く力を身に付けることが求められる。
- ・ 成年年齢、選挙権年齢が18歳となり、主権者として必要な資質・能力を身に付けることが求められる。



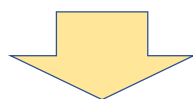
高等学校の学習指導要領が改訂され、
令和4年度から「総合的な探究の時間」が導入された。

部会における背景・課題等について

【課題】

- ・ 県立高校では、大学や民間企業等と連携して探究活動等を実践する際の情報及び好事例が不足している。
- ・ 探究活動では、教員はファシリテーターとしての役割が期待されているもののそのような経験を積む機会が少なく、指導に苦勞している。
- ・ 生徒は、探究活動の課題設定について、どのように取り組めばよいか分からず苦勞している。

※探究活動：探究の過程（①課題設定 ②情報収集 ③整理・分析 ④まとめ・表現）を実践する活動



高校生を対象とした官民連携の
「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す探究活動モデル
を検討する。

「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す探究活動モデル

①森からはじまる未来をつくる

ねらい 西川林業の振興に向けた探究活動を通じて、「持続可能な社会の創り手」を育成する。

課題設定

- ・キックオフ会議
- ・若手林業家による「林業の現状等」の講義

情報収集

- ・森林整備体験、建設現場等の視察
- ・フィールドワーク

整理・分析

- ・グループワーク等を通じた整理・分析

まとめ・表現

- ・高校生によるプレゼンテーション
- ・提案採用等について高校へフィードバック
※森林（林業）ビジネスコンテストへの発展も視野

主な官民連携

- ・若手林業家や林業指導員の紹介、体験、視察、フィールドワーク先の提供（NPO・企業等）
- ・課題の分析・数値化に係る指導支援（大学等）
- ・プレゼンテーション等を英語で行う場合の補助や、情報発信（SNS等）の指導支援、探究活動の伴走支援等（NPO・企業等）
- ・森林（林業）ビジネスコンテストの開催（大学・金融機関等）

事業効果

- ・地域課題の解決を目指した取組を自ら実践することにより、持続可能な社会についての理解を深め、**学びを社会に生かそうとする態度**を身に付ける。
- ・探究活動を通じて、高校生の**思考力・判断力・表現力**等を高める。
- ・林業に対する理解の促進と環境問題に関する意識の啓発を図ることができる。

「持続可能な社会の創り手」の育成を目指す探究活動モデル②～⑤

②川をテーマに取り組む 「SDGs × 地域の課題解決」

- ・ 川をテーマに環境問題等の解決に取り組む探究活動
 - ・ フィールドワークによる情報収集や、デザイン思考を活用した整理・分析等の実施
 - ・ NPOや大学等による支援
- 環境問題に関する意識の啓発



③動画制作で学ぶ企業のSDGs活動

- ・ SDGsの視点から企業を紹介する動画の制作に取り組む探究活動
 - ・ 企業へのインタビューやフィールドワークを通じた情報収集等の実施
 - ・ 大学や企業等による支援
- SDGsに対する理解の促進
キャリア教育の推進



④課題解決への挑戦—大学の技術と設備を利用した 問題点検出と解決法の模索—

- ・ 課題発見、科学的アプローチを活用した課題の分析・数値化等による課題解決に取り組む探究活動
 - ・ 大学教授等との協議や大学設備を活用した計測・分析等の実施
 - ・ 大学や企業等による支援
- 専門的な研究に触れる機会の増加



⑤新しい埼玉を作るビジネスを考える

- ・ 地産地消をテーマに起業に取り組む探究活動
 - ・ 市場調査や、商品検討、計画作成（資金・製造等）、販売までを実践
 - ・ 金融機関や企業等による支援
- 基礎的な金融知識の習得
起業家精神の育成



本分野における今後の展開について

- 実践に向けた具体的な検討・調整（対象地域、実施規模、対象学年等）
- 学校と企業、NPO法人、大学等とのマッチング及び連携の深化
- モデルのスキームを活用した探究活動の拡充
- 生徒が主体的に探究課題を発見できる仕組みの検討



フードロス削減分科会

構成メンバー(10者)

味の素(株) (株)埼玉りそな銀行
イオンモール(株) (株)学研スタディエ
(株)大泉工場
(NPO法人)つどいの会(騎西子育て応援フードパントリー)
Heartsong (福)平野の里
和光市チームSDGs 埼玉大学
埼玉県資源循環推進課

発表者:味の素(株)

<1>

部会における背景・課題等について

1. 背景

- ・日本のフードロスの状況（廃棄量）
※フードロス＝「まだ食べられるのに捨てられてしまう食品」

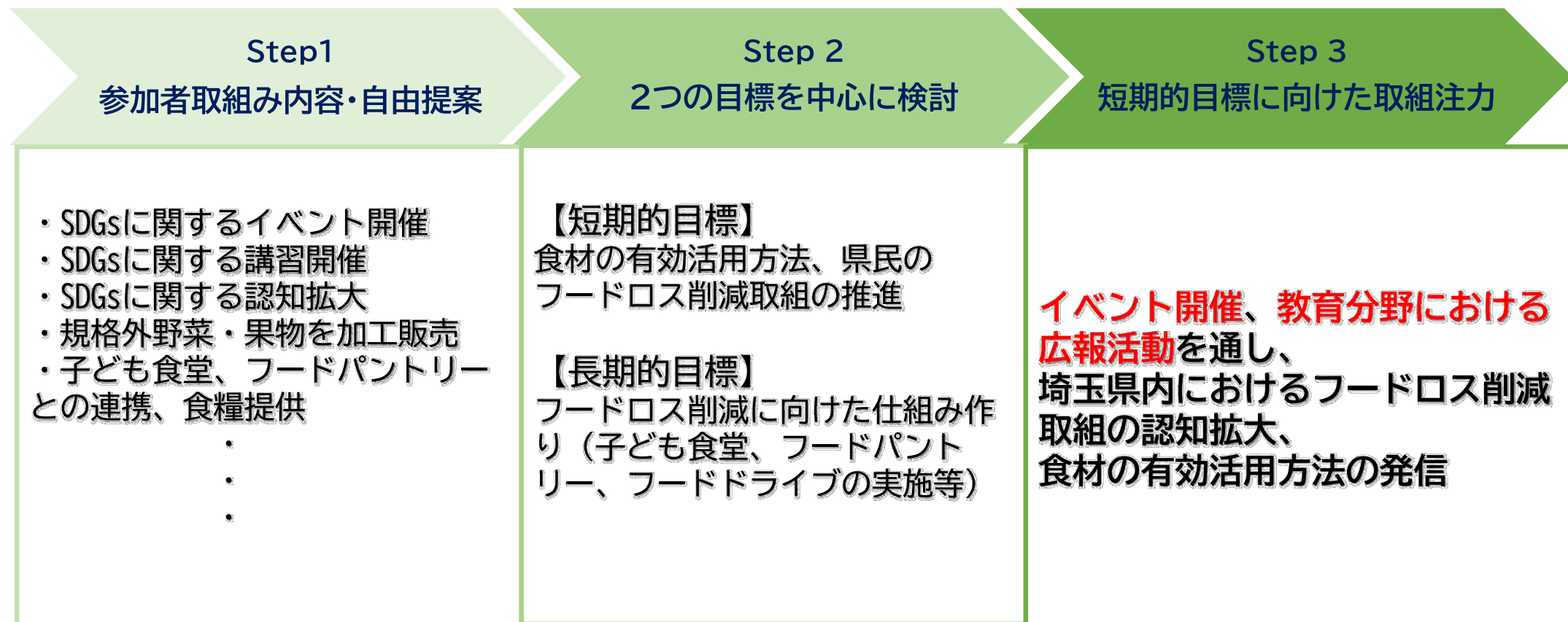
2. 目的

- ・埼玉県内の企業・団体（小売業・外食企業・農家・食品メーカー・行政・教育機関等）と共に「食品の有効活用」を促進・推進することで、フードロスの削減を目指すこと

3. 課題

- ・フードロス削減を実施するインセンティブ、メリットがあまり認識されていないこと
- ・フードロス削減の取組を生活者に発信、促進しきれていないこと
- ・一社、一組織単独での活動内容が限られていること

メンバーからの意見・アイデア等について



フードロス削減分科会

<3>



SDGs 未来都市
埼玉県

部会で検討した事業・取組等について

1. イベント開催（認知拡大）

→県内各イオンモールにてサイネージ放映※を実施（予定）

※サイネージ保有施設のみ

埼玉県 × 味の素(株) × 分科会メンバー

2. 教育分野における広報活動

→子どもたちへの食育を目的にコラボイベントを実施中
学研スタディエ × Heartsong

部会で検討した事業・取組等について

【2022冬 SDGs大作戦】

- ・ 時期：12月22日（木）
- ・ 場所：オンライン
- ・ 概要：小学生を対象に埼玉県内のSDGsに取り組む様々な企業様の活動紹介、SDGs活動の内容についてクイズ形式でのイベントを実施
ハートソングによる、フードロス削減取組内容紹介、インタビューを実施し、動画教材を作成
- ・ 効果：72名が参加
「SDGsについて詳しく知る機会になった」
「こんなに多くの食べられる食材が捨てられていることを知った」など、食品ロスについての認知を促進することに成功
- ・ 参考：<https://youtu.be/M7YjIycG5Ko>



部会で検討した事業・取組等について

【2023春 食品ロスについての標語をつくろう】

- ・ 時期：3月1日（水）予定
- ・ 場所：学研スタディエ 各教室
- ・ 概要：
 - 小学生を対象に、フードロス問題について学び、標語をつくるイベントを開催
 - ハートソング作成の家庭用コンポストを優秀賞としてプレゼント
 - 家庭内生ごみの有効活用を促進



本分野における今後の展開について

- 【短期的目標】 食材の有効活用方法、県民のフードロス削減取組の推進
- 【長期的目標】 フードロス削減に向けた仕組み作り

Step1 認知拡大・行動促進

【2022年～2023年】

- ・フードロスに関するイベント、講習の開催を通して、県民のフードロス削減取組みの促進（身近な単発行動から）
- ・企業・法人間の繋がり、フードロス削減共同取組み促進

Step 2 継続・定着

【2023年～2025年】

- ・継続的な食材の有効活用方法、フードロスに関するイベントを通して、県民のフードロス削減取組の継続を促進
- ・企業・法人間の参画促進

Step 3 フードロス減少取組みの 定着

【2025年以降】

- ・県民、企業、法人間においてフードロス削減取組みが当たり前になった社会の促進